

情報基礎実習 第 6 回

2018 年 5 月 24 日 (木)、5 月 25 日 (金)

担当教員: 逸村裕、高久雅生

TA: 木曜 小室祐樹 浦上諒子 鈴木一生

金曜 小林俊貴 五十嵐智哉 末岡真里奈

1. 本日の主な作業

よい論文やレポートを書くためには、信頼性の高い情報源を活用することが必要不可欠である。情報源には図書、新聞、雑誌など色々あるが、論文やレポートを執筆する際に一番多く用いられる信頼性の高い情報源とは査読 (さどく、peer review、ピア・レビュー) を経た論文である。

今回は日本の論文を探すためのサービスである CiNii Articles、図書館情報学分野の論文を探す上で有用なデータベースである LISA (Library and Information Science Abstracts) と Library Science の使い方を覚えてもらう。

また、研究論文にはその文章を記述するスタイルがある。つまり、小説、新聞記事、エッセイ等とは異なる研究論文の記述方法を学ぶ。

- 論文を探す (CiNii Articles、LISA、Library Science)
- 研究論文形式のレポートを記述する

2. 論文を探す

論文を探すサービスやデータベースは無料・有料問わず様々な形態がある。また、検索は無料だが本文を読むのは有料、というモデルも存在する。筑波大学では様々なサービス、データベースと契約しているため、筑波大学のネットワーク内からそのデータベースを使用すれば数多くの論文等を閲覧できる。学外からでは、本文が読めない論文もあるため、レポート課題に取り組む際は注意する。例えば、今回利用するデータベース LISA は学外からのアクセスでは検索できない。また、『日本図書館情報学会誌』においては、刊行後 1 年以内の論文電子版は学会員以外のアクセスを許さず、1 年を経過すると誰でも閲覧できるように提供されている。なお、筑波大学において契約されているデータベースや電子ジャーナルのリストは、附属図書館トップページの「資料案内」―「調べる・探す」内の「電子ジャーナル/電子ブック」または「データベース一覧」を確認すること。

今回は CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>) と LISA (<http://search.proquest.com/lisa>)、Library Science (<http://search.proquest.com/libraryscience>) を取り上げ、使い方の実演を授業中に行う。

【出席課題】

授業中にある英語論文の標題を与える。その論文を用い、次の出席課題 1、2 に取り組み、Lab2018.docx にそれぞれの回答を記載・印刷して提出する。課題名は、「第 6 回出席課題」

とし、提出期限は 1 限終了時 (09:55) とする。すべて終わらない場合でも途中で切り上げ、必ず締め切りに間に合うように提出する。

【出席課題 1】

この論文の書誌データを SIST02 形式で記せ。

著者: Andrew M. Cox and Sheila Corrall

題目: Evolving academic library specialties.

【出席課題 2】

出席課題 1 の論文の標題と抄録を日本語に訳せ。

3. 研究論文形式のレポートを書くには

学術論文やレポートの文章は、高校までで学習してきたような自分の意見を述べるタイプの小論文とは書き方が異なる。研究論文あるいはレポートの第一の目的は、何かを調べて明らかになった事実あるいはデータに基づいて、そこから導き出される結論を述べることである。従って、基本的に自分の感性、感想、意見のみで構成されてきた高校生（主に文系）までの小論文の記述方法とは異なる場合が多い。

例えば、文章を一つ取っても、研究論文の場合は可能な限り主語と述語を明確に記述し、端的に表現する必要がある。一般に人は自分が書く文章を目的に応じて無意識にその文体を使い分けていることが多いが、学生の皆さんがこれからレポートや卒業論文を書くときに採用すべき文体はどのようなものになるのだろうか。今回は、さまざまな形式の文章・文体を比較することで、これからみなさんが研究論文（卒業研究）やレポートを記述する際に採用すべき文章の形式について学修する。

4. 研究論文形式のレポートを書くには

レポートはその経緯により、分野やテーマによって望ましい書き方が異なる。従って、絶対的に正しい書き方というものは存在しない。しかし、研究論文形式のレポートには次に示すような基本的な書き方がある。今回のレポート作成にあたってはまずはこれらを参考にして取り組むこと。

1. テーマを確認する

- 出題者はそのレポートを通じて何を確認したいのかをよく考える
- 何を書くのかを確認する。特に「〇〇〇について述べよ」とある場合、賛成あるいは反対などの方向性を決める

2. レポートの骨子、枠組みを考える

- どのような流れでレポートを執筆するのか考える
- 展開に論理的飛躍がないか、誤謬がないかをよく確認する
 - 「数学は学ぶ必要はない。なぜなら将来使うことはないからだ」は、「将来使わないものは学ぶ必要がない」という隠れた前提がある

- 「教員の悪口を言うと評価が厳しくなる。従って、褒めれば評価が甘くなる」は、元の命題の裏であるため必ずしも真とは限らない

3. 関連データ、記事、論文、図書などを探す

- 研究論文の信頼性を高めるためには、それを支える事実などを述べなければならない
- ある 1 つの情報源だけを論拠とすることは時として誤った結論を導く。情報源は必ず複数集め、多角的な視点からテーマに取り組むこと。また、自身の結論に対する反論にも備える。
- 一般に、あるテーマにおいて画一的な論調ばかりになることはまず無く、大抵は真っ向から対立する別の論が存在する。是非が分かれる代表的なテーマとしては、「地球温暖化」や「死刑」などが挙げられる。このとき、お互いが自らの論をただ主張するだけあれば議論は平行線を辿り決着することはない。建設的な議論をするためには、相手の主張や論拠、使う言葉や単語に対応する形で自説を展開すべきである
- 論拠とする情報源が本当に信頼できるかはよく吟味する必要がある。例えば、多くの Web サイトに比べれば図書は刊行される前に最低限の確認は行われているはずであり多少は信頼できるといえるが、常に図書が信頼できるとはいいがたい。一方、Web 上で提供されているデータであっても政府が提供している統計データなどは信頼できると言えるだろう

4. 執筆する

- 引用・参照した文献は必ず全て記載する。とくに引用をする場合はその要件を全て満たさなければ剽窃と見なされ厳しいペナルティが課される
- ただし、分からない単語がある度に辞書を参照文献として挙げるのは明らかに冗長である。線引きは難しいが、同じ分野で既に刊行されている論文がどのような引用等をしているか参考にとすると良い

5. 書式、論旨などの確認をし、推敲する

- 書式が決まっている場合、その書式を守らないことは内容以前の問題であり、一般に評価の対象にすらならない
- 誤字脱字や誤用が目につくレポートにはそれなりの評価しか与えられない
- 一度執筆が終わった後にすぐ提出するのではなく、必ず最初から読み直すこと。設定した骨子や枠組み通りに書けたとしても、冗長、あるいはわかりにくい表現、論理の飛躍・誤謬、誤字脱字、誤用などはまず間違いなく存在する
- レポートは人が読むものである。従って、全く同じことが伝わるのであればレポートは短ければ短い方が良い。冗長な表現は極力省くようにせよ
- 執筆直後はミスが目に残らないことが多い。従って、推敲は時間を掛けて行うことが望ましい

今回のレポート課題

- 締め切り
 - 木曜クラス：5月30日（水）15:00
 - 金曜クラス：5月31日（木）15:00
- 内容
 - 演習1～3への回答を記せ。
- 提出先
 - 春日エリア 7B 棟 2 階図書館情報エリア支援室学群教務前のレポートボックス
- 書式
 - Lab2018.docx を適宜書き換えて使用し、1 ページ/枚で A4 片面印刷。複数枚になる場合はステイプラー（針無しは不可）で左上 1 箇所を綴じよ
- 備考
 - 課題名は、「学術的文章の書き方」とする。
 - これまでのテキストや演習中、返却したレポート内などで指示・指摘された細かいレポート書式（ページ番号の付与や使用フォントなど）はすべて遵守すること。既に周知した書式を満足していなかった場合は減点の対象とする
 - 締め切りを超過した場合、最大で未提出扱いとする大幅な減点を行う
 - 提出先を誤った結果として教員の手元に届くのが遅れた場合、締め切りを超過した場合と同等の扱いとする
 - レポート中のあらゆる箇所において手書きは不可とする
 - 提出後におけるいかなるレポートの差し替えも認めない

【演習 1】

以下に示す研究論文、新聞記事、啓蒙書、小説、エッセイを読みそれぞれの文章・文体の特徴を例示されている具体的な文章を基礎に比較した上で説明せよ（1,500 字以内）。

(ア) 研究論文

蔵書は、図書館における第一の経営資源であり¹⁾、図書館が提供するあらゆるサービスの中核²⁾である。その蔵書を構築するための業務は、主に三つからなる。第一は、図書館が所属するコミュニティの特徴や利用者を分析し、蔵書の形成 方針や選書方針を策定するという「計画」である。第二は、図書館に所蔵すべき資料を選書・収集したり、不要である資料を破棄したりする「実行・実務」である。第三は、蔵書の「評価」である。しかし、これらの業務が必ずしもすべての図書館で行なわれているわけではない。三浦は、かなりの時間と労力を要する「計画」や「評価」を実施している図書館は多くなく、「実行・実務」に関しても、実際にどの図書館でも常に繰り返される蔵書構築の業務は、選択（選書）と収集の二つだけであ

1) 岸田和明. “第 1 章 蔵書評価とその方法”. 蔵書評価に関する調査研究. 国立国会図書館, 2006, p. 5-13.

2) 三浦逸雄, 根本彰. コレクションの形成と管理. 雄山閣出版, 1993, 271p.(講座図書館の理論と実際, 第 2 巻).

る³⁾、としている。ここから、蔵書を構築するための業務の中でも図書館の第一の経営資源となる蔵書を選択する「選書」とそれに付随する「収集」という業務は、極めて日常的なものであり、図書館経営において欠くことのできない重要な役割を果たしていることがわかる。

(後略)

(引用文献)

小泉公乃. 蔵書評価法からみた図書館員と教員の選書：慶應義塾大学三田メディアセンターの事例分析. *Library and Information Science*. 2010, no. 63, p. 41-59.

(イ) 新聞記事

(前略)

11月の休日、東京都内の公立図書館。多くの人でにぎわう中、お笑い芸人の又吉直樹さんの芥川賞受賞作「火花」などの売れ筋は書棚ではなく、目立たない一角の「貸出予約コーナー」に集められていた。読み終えた人が返すと、そのまま次の予約者に渡る。

この図書館の「火花」の所蔵数は分館を含め20冊以上。それでも予約待ちは1千人を超す。「いつになるか分からないけど待ちたい」。子連れで訪れた30代の主婦は話した。

(後略)

(引用文献)

日本経済新聞社. 図書館、出版社の敵？. *日本経済新聞*. 2015-12-04, 夕刊, p. 13. 入手先, 日経テレコン 21.

(ウ) 啓蒙書

図書館員の役割は、これからますます大きくなるでしょう。

カウンターでの貸出・返却の仕事は、自動貸出・返却機に取って代わられるでしょう。利用者が自分で処理をすることになります。質問事例もデータベース化され、利用者が知りたいと思ったことも自分で検索してヒントを手に入れたり、回答を得たりすることもできるようになります。いままで図書館員がやっていたことが、新しい技術に取って代われつつあります。図書館員は、カウンターの中にいるのではなく、フロアーに積極的に出て行って、利用者とのコミュニケーションを図るべきでしょう。図書館員が積極的にはたらきかけて触発する。本棚の間を回って利用者からの質問に答える。利用者は、本棚の前に立っているときにいろいろなことを考えるものです。疑問や相談したいことが浮かんだりするものです。気軽に声をかけてもらえるようにすれば、いろいろな質問が寄せられるようになるでしょう。困っている利用者には積極的に声をかける。図書館員が利用者にはたらきかけて

3) 河井弘志. 蔵書構成と図書選択. 日本図書館協会, 1992, 283p. (図書館員選書, 4).

触発する機会は、このほかにもいろいろなことが考えられます。

(引用文献)

島田俊夫ほか.“5 触発する図書館-知識・物語・情報と人を結びつける”. 触発する図書館-知識・物語・情報と人を結びつける. 青弓社. 2010, p.17-18.

(エ) 小説

一、図書館は資料収集の自由を有する。

＊

前略

お父さん、お母さん、お元気ですか。

私は元気です。

東京は空気が悪いと聞いていましたが、武蔵野辺りだと少しはマシみたい。

寮生活にも慣れました。

念願の図書館に採用されて、私は今――

毎日軍事訓練に励んでいます。

＊

「腕下げんな、笠原ッ！」

名指しで飛んだ罵声に、笠原郁は小銃を保持した腕を懸命に引き上げた。

陸自払い下げの六十四式小銃は重量四・四kg、二十二歳女子が抱えて走るにはかなり厳しいウェイトだ。払い下げ元の陸自ではもう使われていないような旧型で、新隊員の訓練用のためだけに保存されているような銃だ。弾の供給も完全に止まっている。

もっと軽くて取り回しやすい八十九式小銃も採用されているが、それを使うのは一部の熟練隊員で、新隊員が仕込まれるのはもっぱら拳銃と短機関銃である。

男子隊員の先行集団に追いつく態で小銃を抱えた持久走を終えた郁は、ゴールを切るなり転げるように地面に倒れ込んだ。五十人中十二位、男子を混ぜてもそこそこの順位だし女子の中ではぶっちぎりのトップだが、

「誰が倒れていいつつた、腕立て！」

くっそう鬼教官め！ 今に見てろ！ 腹の中で毒づきながら、表向きは逆らわずに郁は罰則の腕立て十回をやっつけた。その様子を見ていたほかの女子隊員はゴールしても倒れ込まず、隊列を作って座っている男子の後ろに回ってから休む。

腕立てを終わらせた郁が列に着くと、先に座っていた女子が肩をすくめて小さく片手で拝む。ずっーと一、とは思うがこれもやむなし。

全員のハイポートが終わると昼の休憩だ。グラウンドに正午のサイレンが鳴り響いた。

(引用文献)

有川浩. 図書館戦争. 角川書店, 2011, 398p., (図書館戦争シリーズ, 1).

(オ) エッセイ

(別途配布)

【演習 2】

演習 1 で例示された新聞記事を学術論文の文体の文章に書き換えよ。その際に、学術的表現にふさわしくなかったり、通常使うことのなかったりする表現または内容の削除、修正、加筆（新しい文の追加を含む）まで行うこと。ただし、引用等を行う必要はない。

【演習 3】

授業中に配布した記事に関連した論文を 5 件以上探し出し、文献リストを作成せよ。

- (1) どのような探索戦略たとえばキーワードや絞り込みの条件などを用いるのかを記せ。
- (2) 探し出した論文の文献リストを SIST02 形式で作成せよ。